

実施計画事業名		自然体験学習推進事業		評価対象年度	平成 22 年度		
評価担当部署		教育部 少年自然の家		課長(主幹)名	高瀬 義明		
総合計画体系	分野	1	教育・文化				
	政策	3	活気あふれる学びの場づくり				
	施策	1	学ぶ心の育成を推進します				
	関連施策						
現状と課題	昭和56年に開設した少年自然の家を中心に、背後に広がる丘陵地一帯を活用した散策路「はぐくみの里」や、これと連続する南小の森など、自然体験学習の拠点を整備してきた。また、平成8年には廃校となった旧上声間小学校を活用して自然体験施設を開設した。こうした体験の機会は、こどもの成長に極めて重要だが、日常生活で得ることが難しくなっているため、今後とも学習機会を継続して提供していく必要がある。						
目的	地域の自然を活かした様々な体験学習活動の推進により、自然と触れ合う中で人を思いやる心や感動、達成感、充実感を味わい、青少年の豊かな心や生きる力をはぐくむ						
5ヶ年展開の	①利用者層の拡大…少子化等により利用者が減少していることから、幼稚園・保育所の受け入れ、特別支援学級の個別受け入れ、スポーツ合宿の受け入れなどを推進する。②主催事業等の充実…青少年の体験活動の場として自然体験事業の充実を図るとともに、外部機関・団体と連携したプログラムを実施する。③施設管理運営方法の検討…多様化する利用者のニーズに応えるとともに、施設設備と機能をより効果的・効率的に高める必要があることから、民間の活力を活用し、利用者サービスの向上と経費の節減を図るため、指定管理者制度の導入に向け検討を進める。						
成果指標	名称		単位		21年度	22年度	25年度
	自然体験学習施設利用者数		人	目標	17,120	17,170	17,480
説明	1年間に少年自然の家・自然体験施設・わっかない育みの里・南小の森を利用した人の数(延べ)			実績	15,318	16,486	
活動指標	名称		単位		21年度	22年度	25年度
	少年自然の家研修プログラム利用者数		人	目標	2,500	2,500	2,500
	説明	1年間に少年自然の家に来所し、研修プログラムを利用した人の数		実績	2,257	2,481	
	少年自然の家主催事業に参加した子どもの満足度		%	目標	95.0	95.0	95.0
	説明	各主催事業に参加した子どもを対象に行う満足度調査の平均値		実績	95.0	94.9	
	わっかない育みの里利用者数		人	目標	1,250	1,250	1,400
	説明	1年間にわっかない育みの里を利用した人の数(延べ)		実績	1,185	2,502	
	南小の森利用者数		人	目標	270	270	280
説明	1年間に南小の森を利用した人の数(延べ)		実績	265	268		
事業費の実績		単位	21年度 (決算)	22年度 (評価年度決算見込)	23年度 (予算)	備考	
	直接事業費(A)	千円	38,139	36,460	50,787	平成23年度から指定管理者制度導入による事業費の増及び職員数の減	
	国庫支出金	千円	0	0	0		
	道支出金	千円	0	0	0		
	起債	千円	0	0	0		
	その他	千円	13,317	12,748	3,706		
	一般財源	千円	24,822	23,712	47,081		
	この事業にかかる職員数	人/年	5.49	4.98	0.52		
人件費(B)	千円	38,024	33,819	3,531			
計(A+B)	千円	76,163	70,279	54,318			
状況変化	実施計画当初(平成21年～)からの状況変化 平成23年度から指定管理者制度導入						

【1次評価】

成 果	成果指標の単年度の目標値は達成できたか(単年度の目標値がない場合は、長期的な目標値を達成できそうか予測)
	b a 目標達成 b ほぼ目標どおり c 目標達成できず(目標値と大きな差がある) <cの場合は、なぜかを分析して記入する>
細 事 業 の 構 成	細事業の改廃や新規細事業の必要性はないか
	a a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
進 め 方	各細事業の進め方について、市民との協働、他団体等との役割分担の見直し、環境への配慮など、改善の必要性はないか
	b a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する> 維持管理事業については、施設及び備品の老朽化に伴い、年次的に施設の補修や備品の更新が求められている。主催事業については、参加者の満足度は高いが環境学習や自然体験事業の内容充実が望まれる。また、職員の指導能力向上のための研修や外部講師の活用を進めていく必要がある。自然体験施設管理事業運営については、市民の利用を促進するため、施設のPR活動を積極的に行い、認知度を高めることが必要である。
コ ス ト 効 率	無駄なコストが発生していないか、投入した予算や人員に見合った効果が得られているか
	b a 問題なし b 改善の余地がある <bの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する> 少年自然の家の管理・運営については、利用者サービスの向上と経費節減を図るため、平成23年4月1日から指定管理者制度の導入を決定した。
総 合 評 価	B 見直しの検討が必要 <A~C判定を受けての今後の方針、問題点に対する改善策などを記入する> 指定管理者制度の導入により、柔軟な勤務体制による夜間プログラム対応、休館日の縮減、利用団体の活動時間に合わせた施設運営の弾力化などにより一層の利用者サービスの向上と施設の有効活用を図る。指定管理者が持っているノウハウを研修カリキュラムに反映させ、施設の魅力アップを図る。長期的には、1泊2日から2泊3日の研修に対応できる体制に取り組み、学校宿泊研修の「もう1泊」による宿泊研修効果の向上と利用促進を図る。

【2次評価】

成 果	b	細事業の構成	a	細事業の進め方	b	コスト効率	b
総 合 評 価	B 見直しの検討が必要 <2次評価者の視点からコメントを記入する> 1次評価のとおり取り進めること。						

【内部評価委員会】

意 見	
--------	--